

放課後等デイサービス 自己評価結果(公表)

公表:令和6年5月1日

事業所名 こどもハウスだんぼ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	86%	14%		利用者の状況により狭く感じることもあるが、無駄なスペースをなくし、1人あたりの実質有効面積の向上に努めたい
	2	職員の配置数は適切である	71%	29%	利用児:職員=1:1を心がけている	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	71%	29%	完全ではないが、福祉用具で補うなど工夫している	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	86%	14%	月1回の会議で確認している	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		保護者様等の意見、苦情、要望等はその都度、職員全員で話し合い、話し合った内容を保護者様に報告しているが、今後も利用者本位の事業所を目指していく
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	弊社ホームページに公開している	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%		第三者評価については今後実施できるよう努めていきたい
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	月1回テーマを決めて実施している	欠席者には資料配布で補っているが、研修内容の定着度アップに向けた取り組みを検討したい
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	86%	14%		児童発達支援計画内容が不十分な場合もあり、保護者との話し合いを密に行い、ニーズを十分に反映した計画の作成を行いたい
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	86%	14%	概ね実施できている	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	月1回の会議で行っている	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	概ね実施できている	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	86%	14%	会議を通して、それぞれの支援内容を検討している	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		偏った計画にならないよう取り組んでいきたい
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%		打ち合わせを行っているものの、利用児の医療面、安全面等の確認も多いため、効率的に確認業務が行えるよう取り組みたい
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	86%	14%		送迎等により、職員全員が参加しての打ち合わせが難しく、今後改善したい
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	業務日報により行っている	

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	86%	14%		6か月ごとにモニタリングを行っているが、計画の精度を高めるためにも、短期間でのモニタリングの実施を検討したい
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	86%	14%	概ね実施できている	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	86%	14%	主に管理者兼児童発達支援管理責任者が参画している	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	必要に応じて行っている	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	86%	14%	利用開始前には主治医を訪問するなど、必要に応じて連携している	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	86%	14%	必要に応じて行っている	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	86%	14%	必要に応じて行っている	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	86%	14%	必要に応じて行っている	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	57%	43%		現在もコロナ感染が続いている状況で積極的に交流がもてておらず、今後の対応として検討していきたい
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	43%	57%		今後の課題である
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡帳やSNSを利用して、お子様の状況について密に連絡している	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	43%	57%		今後の課題である
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	86%	14%	利用開始時に説明している	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	86%	14%	保護者と相談員の来所を受け入れたり、SNSを利用して、保護者様の悩み等をお伺いし、助言を行っている	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	29%	71%		以前はできていたが、コロナ禍以降開催できていないため、今後開催に向けて取り組んでいきたい
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		保護者からの相談や申入れには、迅速な対応を心がけているが、対応体制の整備等についての保護者への周知は今後の課題である
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	86%	14%	毎月、機関誌を発行し、デイサービスでの活動の様子を伝えている	

	35	個人情報に十分注意している	86%	14%	概ね実施できている	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	86%	14%	概ね実施できている	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	57%	43%	ボランティアの受け入れを行っている	感染症の懸念等、今後の課題である
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	86%	14%		職員間は閲覧等により周知を図っているものの、保護者に対しては不十分であり、今後ホームページに掲載するなど周知に努めたい
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	年2回の避難訓練を実施している	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	月1回の会議で行っている	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	86%	14%	概ね実施できている	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	29%	71%	必ず行っている	現在は食物アレルギーの利用児はいない
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	86%	14%	その日のうちに作成するルールであり、概ね実施できている	